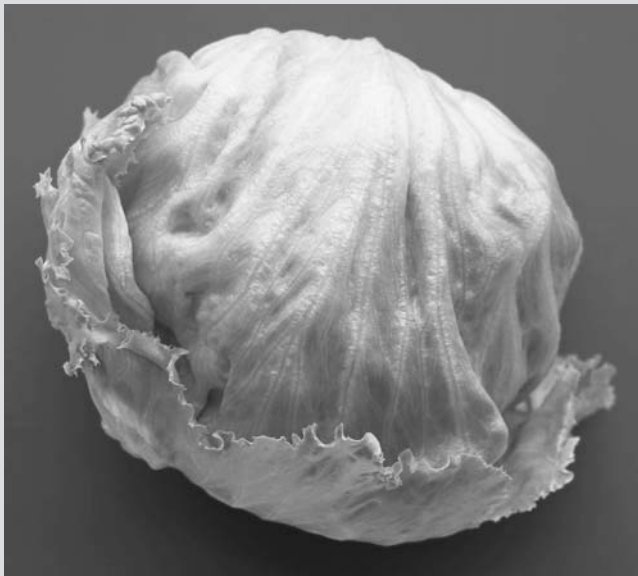


広告



▲マルチ栽培は、畑にポリエチレンフィルムを張って苗を植える農法。太陽の光を反射したり、地温を下げたり、さらに除草効果も期待されるそう。

◀定植前の苗

■購入できる場所

- ・JAIいしかり地物市場(樽川120-3)
- ・コープさっぽろいしかり店「JAIいしかり野菜コーナー」(花川北3-3)

7月に入ると、高岡・美登位・北生振の畑でレタスの収穫が始まります。この地で本格的にレタスが生産されるようになったのは、平成17年から。まだ歴史は浅いながら、30代の若き農業経営者たち7人が「レタス研究会」を立ち上げ、ほかの産地に負けない、おいしいレタスを作ろうと、さまざまな努力や愛情を積み重ねています。

「レタスは涼しいところを好む野菜です。そのため暑さ対策としてマルチ栽培を採用するなど、細心の注意をはらって育てています」とは同研究会の雫子谷辰也さん。研究会では玉の大きな「シルル」という品種を主に栽培。レタスは栽培中はもちろん、

愛情いっぱい育てたレタスは食感が違います！

収穫の際も暑いとすぐに葉がしおれてしまって商品価値がなくなってしまうため、出荷するそのときまで気が抜けない、とてもデリケートな野菜なのです。

「今年は5月の苗の定植期にまとまった雨が降ったので、例年よりも大きめに育つのではないかと期待しています」と雫子谷さんからは笑顔がこぼれます。また、去年は夕方に収穫するだけでしたが、今年は朝どりも予定しているそうで「より鮮度の高いレタスを味わっていただけたらと思います」

石狩産レタスの収穫は10月まで続くとのこと。ぜひとも皆さんも、地元のみずみずしく、シャキシャキとした新鮮レタスを堪能してください！

文月に想う

IT時代にあつて、ゲームソフトも現代日本文化として国際的評価は高まっているという。中でも若い女性は戦国武将物を殊のほか好ましいとしているのは、「草食系」と言われた男性への抗議の意もあるらしい。◆その一方で日本の伝統文化が薄れている。「七夕」は短冊に歌や願いを込めて笹に括り星に捧げる行事、故に文月と称するとのこと、月柄を象徴する素晴らしい行事である。七夕の日、父は川岸から柳を切り出し玄関に立て、子ども達は一日をかけて短冊づくりや飾り付けをしたものだ。◆今さらコンピューターを否定する気はさらさらないが、子ども達にせめても五節句の行事を伝えるのは大切なことではないだろうか。日本人の四季豊かな感性を受継ぎ、世界との違いを強みとすることは、これからの日本の発展要素としても大切な部分である。◆とくに環境時代を迎え世界がものづくり国日本を改めて見直し始めたその一方で、文月の伝承が消えていくのは、実に寂しい。「ローソク出せよ 出さないと かつちやくぞー」の町歩き行事は、単にノスタルジアだけとはいえない。独創的なクールジャパンの数々を創出するものづくり日本人の心の糧ともいえるものだ。◆石狩川は「天の川」を地に撮したものだと言えたりユウカラ文学。「柵機」の織姫伝説は星と人の語りあい。石狩市への誘致を進めている最新のデータセンターに設置されるのはクラウド(雲)コンピューターと呼ぶそうだ。最先端技術を雲と名付けるほど無限の世界一つの世も形のない有価値との出逢いこそ進化の糸口であることに変わりはない。

(市長)